

一宮町長  
馬淵 昌也

本年は、千葉県が成立してから、百五十周年だそうです。わが町で、千葉県政との関わりが深い方というところ、県知事を勤められた加納久朗氏がいらっしゃいます。久朗氏は、一宮町長にもなられた最後の上総一宮藩主、加納久宜公のご子息です。昨年末、公民館で久朗氏についての展示を行っていたので、ご覧になられた方もいらっしゃるかと存じます。

久朗氏は、学習院を卒業されたのち東京帝大に進み、在学中に父上の一宮での活動展開に伴い、一宮町の初代の青年会長に就任なさいました。その後横浜正金銀行(現三菱UFJ銀行)に入行され、一九三四年から四二年まで、戦争が近づく中、ロンドン支店長を勤められました。そのとき、駐英大使であった吉田茂氏(後の首相)と親しく付き合い、日本と英米との戦争の回避を模索されたと伺います。

戦後、一九五五年に初代の日本住宅公団総裁となつて、ダイニングキッチンなどを具えた当時ではきわめて斬新な「団地」の建設を進められました。そして、一九六二年、七六歳で千葉県知事に当選されました。就任後、エネルギー

ギッシュに公務に奔走され、土曜閉庁など、画期的な試みを行われましたが、急病を得て、残念ながら在任わずか百十一日でご逝去されました。

久朗氏は、英独仏三か国語をあやつる欧米通であるだけでなく、「彼の頭の上だけは、いつでもポツカリ青空がぞいていた」といわれる、時代を先取りできる自由人でいらしたそうです。現在のアクアラインの原型ともいわれる東京湾横断橋や、湾内を埋め立てたニュータウン建設プランなど、たいへん大胆な首都圏改造構想を抱いておられたことも有名です。もし健康で任期を全うされたら、どんなにか千葉県の歴史が変わっていたか、と早にご逝去が大変悔やまれます。

実は、加納久朗知事の別邸は一宮町追手に現存しています。オーナーの方は、史跡として大変重要だと考えておいでなので、今後最も良い保存方法が策定されることを期待しています。

久宜公と同様に、久朗氏も大変魅力的な方です。私たちは一宮町民として、久朗氏から学ぶべきものが沢山あると思います。